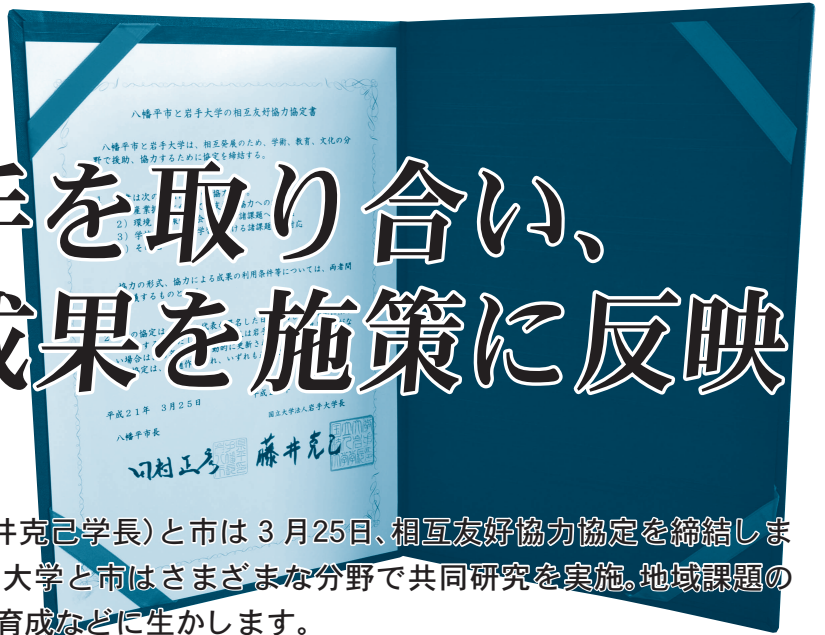


## 岩手大学と市の相互友好協力協定を締結

# ともに手を取り合い、 研究の成果を施策に反映



国立大学法人岩手大学(藤井克己学長)と市は3月25日、相互友好協力協定を締結しました。この協定に基づき、岩手大学と市はさまざまな分野で共同研究を実施。地域課題の解決や躍進の鍵となる産業の育成などに生かします。

### 地域課題の解決に 向けて大学と連携

市は、産業振興や教育の充実など、さまざまな分野で施策を展開しています。しかしながら、近年の人口減少や少子高齢化の進行、就業構造の変化といった諸問題により、行政を取り巻く環境も大きく様変わりをしてきました。

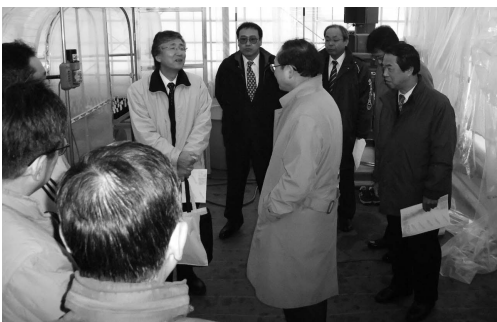
市は、こうした問題に対応するため、組織の再編を行い、市民の声に応えた行政サービスを提供してきましたが、これまでの行政の枠を超えた新たな課題への取り組みが求められています。

市は、こうした新たな地域課題に対応するためには、専門的な調査・研究が欠かせないと判断。こうした課題への対応策を学術機関と連携して、共同で研究を行うことにしました。県内には多数の大学があり、それぞれ地域や産業界との連携活動が行われています。市は、そうした中でも、10市村と相互友好協力協定を締結して、さまざまな実績を挙げている国立大学法人岩手大

学と連携することを決めました。

### 地域の連携を深め 多くの実績を残す

岩手大学の地域連携への取り組みは古く、地域や産業界との連携事例は数多くの実績を挙げています。代表的なものとしては、納豆菌を発見した盛岡高等農林学校(現岩手大学農学部)の村松舜祐博士から、直接指導を受けて製品化された株式会社丸勘商店(本社・工場、八幡平市)の「盛岡納豆」。また、松尾鉱山の鉱排水を浄化する中和処理施設



協定締結に向けて市内を視察する岩手大学関係者

の技術開発への協力など、地域と深くかかわってきました。今回の連携では、岩手大学と市が協定を結び、市総合計画に基づいた分野の中で、大学と密接に協力しながら共同で研究を進め、市の施策に反映させていくことが特徴です。この研究のため、4月から岩手大学地域連携推進センターへ共同研究員として市職員を派遣。市と大学のパイプ役となつて、さまざまな研究や共同事業の企画・実施を行います。

### 協定の締結までに さまざまな協議を

相互友好協力協定を締結するに当たって、どのような分野で研究を行うかなど、大学側と事前協議を積み重ねました。

この間、大学関係者と松尾地区の熱水ハウスや雪冷房培養施設を視察。農業など産業振興の方向性などについて意見交換し、共同研究などについて大学関係者と協議を行いました。

## ●岩手大学との連携協力が想定される事項

協定項目	連携協力事項
1. 産業振興に向けての支援・協力への対応	産学官連携
	定住・交流
	観光振興
	地域資源活用
2. 環境・情報化社会における諸課題への対応	災害時の情報伝達
3. 学校教育・生涯学習における諸課題への対応	学校教育
4. その他	公共交通体系
	協働のまちづくり
	土地利用
	国際交流

縮結式終了後には、「岩手大学地域連携フォーラムin八幡平市」が開催されました。これまでに行われた地域連携にかかわる取り組みについて、共同研究員などが具体的な事例を交えながら紹介。より広範で強い連携を実現するため、市職員などが地域連携の在り方について学びました。

詳しくは、市企画総務部総合政策課政策調整係（☎76-2211-1、内線1221）まで。

岩手大学と市の相互友好協力協定の締結式は3月25日、西根地区市民センターで行われました。

藤井克己学長と田村正彦市長が、それぞれ署名して協定書を取り交わし、固い握手で協力を誓いました。

協力する項目は、左の表に掲げた▽産業振興▽環境・情報化▽学校教育・生涯学習など。これに基づいてさまざまな研究や事業が行われることが予測され、その成果は市の施策として反映されます。

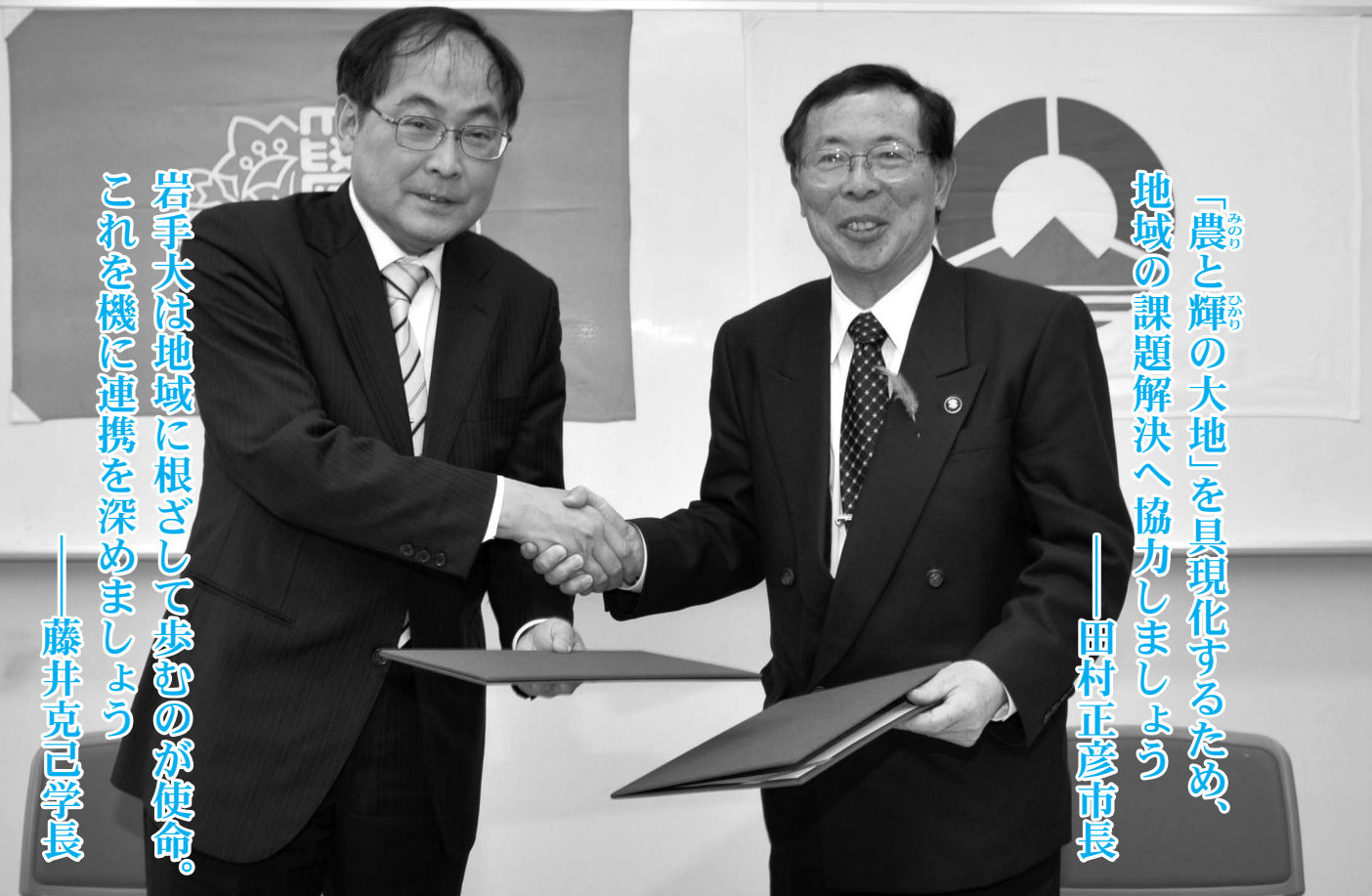
**協定を取り交わし  
互いに協力を誓う**



実例を交えながら地域連携について学びました

# 岩手大学と八幡平市の相互友好協力協定締結式

岩手大学・八幡平市



岩手大は地域に根ざして歩むのが使命。これを機に連携を深めましょう

— 藤井克己学長

「農と輝の大地」を具現化するため、地域の課題解決へ協力しましょう

— 田村正彦市長